

&lt; 認知症対応型共同生活介護用 &gt;

**評価結果報告書****地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4670103573
法人名	医療法人 吉翔会
事業所名	グループホームゆうかり
訪問調査日	平成 19年 10月 24日
評価確定日	平成 20年 1月 24日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

**記入方法**

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103573
法人名	医療法人 吉翔会
事業所名	グループホームゆうかり
所在地	〒892-0871 鹿児島県鹿児島市吉野町5400-1 (電話) 099 - 244 - 5481
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	〒890-0056 鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48-13
訪問調査日	平成 19年 10月 24日

【情報提供票より】(平成19年9月6日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 9人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り 1階建ての 1階 ~ 1階部分
------	--------------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	180 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり	780 円		

## (4) 利用者の概要(平成19年9月6日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 87歳	最低	79歳	最高	95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	よしの相良外科・吉元歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームはよしの相良外科の後方に位置して、玄関周囲には芝生や季節の花が咲き、玄関には和風の小物が置かれて家庭的な雰囲気を有している。ホーム内は天井が高く、天井窓があり、明るい。広々としたフロアの壁には絵画や写真が飾られ芸術的な雰囲気が感じられる。園芸用品・手芸用品が一角に準備され、利用者がいつでも使用できる。又、オルガンもあって、音楽を楽しむこともできる。フロアには畳スペースがあり、冬は掘りごたつにしてゆったりとくつろげる場になっている。運営者・職員は新しい認知症(可能性人間性思考)ケアを学習し、生活の中で共に感動する場面をつくり、可能なかぎり自立した生活が送れるよう、利用者の笑顔に支え・努力している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	年間行事計画を挙げ、行事の案内を行なっている。その他の改善点も列記し、少しずつ改善の方向へ努力している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で自己評価に取り組み、気づきの大切さを実感している。外部評価後は改善点を列記し、全員で改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今までに3回実施し、行事・外部評価・今後の取り組み・要望等について報告し、意見をもらっている。習字や絵描きも単なるレクリエーションに終わらせず、完成作品は互いに鑑賞する場を設けるなど、大人としての扱いが望ましいと言う意見もあり展示・観賞する機会を作った。今後も第三者の意見を活かし介護サービスの充実を図るよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	年1回は家族会を実施している。面会や行事参加の折に意見や要望を引き出す働きかけを行なっている。今後も小さな不満や苦情等を記録・対応し、介護サービスの充実に反映して欲しい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	年間行事計画のもと、もちつき大会をしたり、職員手づくりのチラシを配布し、地域住民に働きかけ、ミニコンサートを開催して交流に努めている。運営推進委員会を通して、更に地域との連携が深まることを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『利用者がその人として、その人らしく生活できるように支えていく』が、ホーム設立以来の理念である。		職員も含めた話し合いの場を作り、地域密着型サービスとして事業所独自の理念であることが望ましい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念(その人らしく・自立・安全につながる援助)を共有し、実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人達も加わってもちつき大会をしたり、職員手づくりのチラシを配布し、地域住民に働きかけ ミニ・コンサートを開催して地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、気づきの大切さを理解している。外部評価後、全職員で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに3回実施している。行事・外部評価・今後の取り組み・要望等について報告並びに意見をもらっている。絵描きも単なるレクリエーションに終わらせず、大人としての扱いが望ましいと云う意見もあり、作品として展示している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回、行政の介護相談員の訪問を受けている。運営推進会議に市町村担当者へも呼びかけて徐々に連携を深めつつある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の状況を定期的に手紙・電話・ゆうかり便で行っている。金銭管理は面会時に出納帳にて報告し、確認印をもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回実施している。面会・行事参加の時に意見や要望を引き出す働きかけを行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が継続的に支える体制が重要と考えているがやむを得ない場合はその時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。家族へはゆうかり便で報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が計画的に研修に参加できる体制になっている。又、研修内容は全職員が共有できるよう報告する機会を作っている。法人内研修は週、1回実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と情報・意見交換の場を作っている。又、互いにホーム見学を実施して質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が利用者宅を事前訪問する事もあり、家族の希望により即日の入居もあるが、通常は仮入居の期間を設けて利用者が納得した上で入居する。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	草花の名前や食材の調理方法を利用者から教わるなど、支えあう関係を築き、信頼関係を深めている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握し、個々の意思を尊重し、気持ちを受け止めた支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の要望や本人の意向を踏まえ、アセスメントを基に関係者間で十分話し合い、介護計画を作成している。		地域住民との交流を踏まえた園での暮らしを反映した介護計画を期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活状態を把握し、変化が生じた際はケースカンファレンスで、十分に意見を出し合い現状に即した見直しをしている。2ヶ月に1回は検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望するかかりつけ医に、受診や通院ができる対応している。1年に1回健康診断をし、結果は電話したり、面会時に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアを家族の希望を踏まえ、実施している。利用者・家族・医師・看護師と話し合い、方針の共有を図っている。		入居当初に、重度化や看取りに関する方針の説明をし、早期に利用者・家族の意思確認書や終末期マニュアルの作成が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	月1回の定例ミーティングを行い、プライバシーの保護徹底、利用者の尊厳と権利を守るよう努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に希望にそった支援をしている。 (新聞・テレビ・散歩・朝夕の涼しい時間の畑仕事等)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、出来る範囲内で食材などの下ごしらえや調理に積極的に関わっている。メニューも嗜好にあったものを選択し、スタッフと一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は職員の見守りの中、少なくとも週3回は入浴を楽しんでいる。希望があれば臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	要望に応じて散歩・買い物・ドライブ・カラオケ・楽器を楽しんでいる。大広間にある整理タンスには絵かき・手芸用品等の必要物品がいつでも使用できるよう準備され、趣味を発揮できる環境が整えられている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑に出かけたり、希望があれば買い物やドライブに出かけるよう、支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関、テラスは自由に出入りできるよう、施錠はしていない。職員は利用者全員を把握できるよう、連携をとっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	連絡網・避難マニュアルを作成し、避難訓練を行い、自衛消防隊を編成して、災害に備えている。近隣への声かけにも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックして確保できるよう支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、天井が高くて明るく季節の花や絵画・写真も飾られ、居心地の良い空間ができている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの時計・写真・鏡台・ソファー・テレビなどが持ち込まれ、個性が活かされ安心して過ごせるよう、工夫されている。		